

御所の台エリア再構築構想

1-1 基本理念の設定

地域づくりや本エリアの再構築に関わる団体、住民等が、今後活動を展開していくにあたって大事にしたい思いやビジョンを「共通の価値観」として共有するため、基本理念を設定します。

<基本理念の考え方>

- ・本エリアに整備されている施設は、地元はもとより町外からの利用も多くみられる施設です。
- ・本エリアに、道の駅を移転することで、知名度の向上、時代のニーズに対応した新たな道の駅機能の拡充、本町のポテンシャルを活かした既存施設の機能の見直し、民間企業等とのタイアップなどを行い、エリア全体の魅力の向上を図り、本町の「観光交流拠点」を創出します。
- ・地元目線での機能強化も視野に入れ、観光交流と地元交流を促進していくことで、地域活性化に資する『白神山地の豊かな恵みを活かした交流ターミナルの創出』となる拠点づくりを進めます。
- ・将来的には、北東北を代表する観光交流拠点を目指していきます。

1-2 基本方針の設定

基本理念・将来像を実現するための取組みの基本方針を設定します。

基本方針1 地元事業者等と連携した1年を通じ、にぎわいを創出する“しかけ”づくり
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 当地域のマイナス部分をあえて活用し、付加価値を高めた観光プランの開発、ハタハタの再ブランド化 ◆ 各資源等を活用し、ストーリー性や来訪目的を明確化した観光プラン等の充実 ◆ 本エリアならではの魅力を堪能できる観光（写真映え）スポットづくり ◆ 地元の新鮮な食材等を使用した郷土料理などを気軽に味わえるメニュー開発やオートキャンプ場利用者などが、その場で地元食材等入手できる環境づくり ◆ JR五能線などを活用した車を利用せずにも来訪できる観光地づくり ◆ 本エリアのポテンシャルを引き出す企業等とのタイアップの促進
基本方針2 デジタル技術を活用したコンテンツの開発
<ul style="list-style-type: none"> ◆ デジタル技術を活用し、戦略的な広報・宣伝の開発 ◆ 地域の商品やサービス等をオンライン上で予約、購入できる新たな販路展開の創出 ◆ インバウンド需要への対応（キャッシュレス決済対応等）
基本方針3 道の駅はちもりの移転を契機とした本エリアの機能拡充・質の向上
<p>ハタハタ館、産直ぶりこ 道の駅の機能をもった宿泊・健康増進・特産品販売拠点。防災機能の強化やハタハタ館とあきた白神体験センターとの一体的利用、セキュリティ強化</p> <p>健康増進機能（ハタハタ館温泉、子どもの遊び場等） ・必要に応じ機能拡充の検討</p> <p>野球場、御所の台ふれあいパーク、オートキャンプ場 ・企業等とのタイアップを促進していくゾーンとして活用 ・既存施設の機能見直し</p>
<p>あきた白神体験センター ・通年型の施設利用への変更 ・施設機能の見直し</p> <p>その他 ・ユニバーサルデザインの導入 ・多言語対応型の案内板の設置 ・脱炭素の実現に向け、環境へ配慮した施設整備 ・ネットワーク軸の形成</p>

1-3 道の駅の導入機能の設定

基本理念、将来像、基本方針を踏まえ、道の駅への導入機能を以下のとおりとします。

導入機能	導入施設	考え方	設定規模	備考
休憩機能	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の本来の休憩機能として必要となる駐車台数を確保することを基本とします。 ・敷地に余裕がある場合には、可能な限り、駐車台数を追加していきます。 	移転後の駐車台数 大型車：2台 小型車：4台 身障者用：1台 自動二輪車：4台	移転前の駐車場整備台数 大型車5台 小型車：30台
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の本来の休憩機能として24時間利用できるトイレを整備します。 ・誰でもトイレ（身障者、オストメイト対応、ジェンダー対応等）、パウダールーム、ベビーコーナー（おむつ替え台、授乳室等）などを整備し、トイレの機能拡充を図ります。 ・誰もが快適に利用できるように明るさと清潔感のあるトイレの整備を図ります。 	移転後のトイレ規模 男：大4、小3 女：大5 多目的トイレ	移転前のトイレ整備状況 男：大2、小3 女：4 身障者用：1
	休憩コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の本来のドライバー等の休憩機能として24時間利用できる休憩コーナーを整備します。 ・長距離ドライバー等が気軽に利用できるシャワー室付の休憩コーナーの設置を検討します。 	約140㎡	
情報発信機能	情報発信コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の本来の情報発信機能として24時間利用できる情報発信コーナーを整備します。 		
地域振興機能	特産品等の販売コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ハタハタ館の売店スペースに、道の駅や産直ぶりこの販売スペースを集約し、特産品等の販売コーナーを整備します。 	約215㎡	
防災機能	防災関連設備	<ul style="list-style-type: none"> ・防災機能をもった道の駅としていくため、24時間対応電話、非常用発電設備、耐震性貯水槽、耐震性汚水槽（汲み取りタイプ）等の整備を検討します。 		
その他	自由通路、海側出入口	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の産直ぶりこ北側に設置されている自由通路の出入口部分は、道の駅と一体的に利用できるように、新たにエレベーターを設置します。 		
	サイクルステーション	<ul style="list-style-type: none"> ・電動キックボードやレンタサイクル、自転車の空気入れ・工具などを備えたサイクルステーションを整備します。 		

1-4 既存施設等の方向性

基本理念、将来像、基本方針を踏まえ、既存施設等の連携・利活用等の方向性を検討します。

施設名(※)	連携・利活用等の方向性	主体
ハタハタ館 (道の駅)	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅を整備し、道の駅の機能をもった宿泊・健康増進拠点として活用 ⇒1階、売店部分に産直ぶりの販売機能を集約し、地域連携機能として活用 ⇒2階部分の交流広間は単身・少人数向けの宿泊施設として活用 ⇒1階のトレーニングルームは交流広間として活用 ⇒民間企業による整備状況等を見ながら、必要に応じて、温泉施設の機能の拡張や子ども達の屋内遊び場機能の導入検討 ⇒あきた白神体験センターとの一体的利用を踏まえ、利用者動線の見直し、利便性やセキュリティ面の向上 	町
産直ぶりこ (道の駅)	<ul style="list-style-type: none"> ハタハタ館と一体的に道の駅として活用 産直ぶりこの販売機能は、ハタハタ館へ集約 ⇒産直ぶりこに休憩・情報発信機能を集約 ⇒今後、必要に応じ建替え等を検討 ⇒「地場食堂どはち」の提供場所を検討 	町
あきた白神体験センター (山の駅)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には、従来同様、自然体験の拠点としての活用を継続 冬期における宿泊ニーズに対応できる施設整備 ⇒1階部分の宿泊室は、単身・少人数向けの宿泊施設として活用 ⇒将来的には、2階部分の宿泊室を活用し、大学生等の合宿等の受入れ等を検討 	県 (町)
緑地等管理中央センター (鉄道の駅)	<ul style="list-style-type: none"> 従来の料理体験や駅待合スペース等としての利用に加え、山側の総合案内設置等について、JRとの共同を検討 ⇒薪ストーブ・暖炉・囲炉裏などの設置など特色ある待合スペース等の検討 ⇒老朽箇所や多目的トイレの設置などの改修、駐車場の整備 	町
御所の台オートキャンプ場 (企業とのタイアップゾーン)	<ul style="list-style-type: none"> 野球場と一体的な利用を図り、アウトドア企業等との連携によるキャンプ場、グランピング等のアウトドア系施設の導入 	民間
野球場 (企業とのタイアップゾーン)	<ul style="list-style-type: none"> 野球場の老朽化が著しいことから、用途の見直し 御所の台オートキャンプ場と一体的な利用を図り、企業等との連携によるアウトドア系施設の導入 	民間
国道沿い森林スペース (企業とのタイアップゾーン)	<ul style="list-style-type: none"> 企業等と連携のもと、来訪者等が地元の食材等を堪能できる飲食店やマルシェ、スイーツなどを販売するショップ等の導入 	民間
御所の台ふれあいパーク (憩い・レクリエーションゾーン、企業タイアップゾーン)	<ul style="list-style-type: none"> 従来どおり、町外からの利用や町民等の憩い・レクリエーションの場としての利用を継続 リゾート系の宿泊施設やアクティビティを体験できる場、本町で力を入れている生薬栽培等を広めていく場として活用を検討 	民間
自由通路	<ul style="list-style-type: none"> エレベーターの設置等バリアフリーの強化 	町
既存駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の出入口は、既存出入口を活用(ただし、企業等が進める事業等を踏まえ、随時、見直しを実施) 車動線と交差する部分に横断歩道等の設置 歩道にシェルターの設置や風よけのための植栽等の配置 	町
全体	<ul style="list-style-type: none"> 段差の解消、EV設置等によるバリアフリー化 多言語型の案内板・誘導サイン等の整備 洋上風力発電事業者との連携のもと洋上風力で発電された電力等の利用 企業タイアップゾーンに進出してくる企業等と連携し、サイクルステーションの設置個所の増設検討 	町

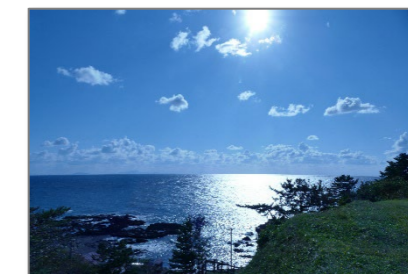
※ () 内は将来像における位置づけ

1-5 事業スケジュール

本構想では、町が主体となり整備する施設と民間等が主体となり整備する施設があります。民間等主体の整備施設については、企業誘致等を含め、今後検討を進めていきます。本構想においては、町が主体となり整備する施設(「1-4 既存施設等の方向性」において主体項目に「町」と示す)の事業スケジュールを示します。事業スケジュールについては、再構築構想の策定を踏まえ、今後、ハタハタ館や産直ぶりこ等の関係団体や国・県等との協議を行い、測量調査及び設計業務完了後、建設工事に着手してまいります。

■事業スケジュール

項目	1年度目	2年度目	3年度目	4年度目
再構築構想の策定				
関係機関等との協議	→			
測量調査	→			
基本設計 実施設計	発注準備	設計	積算	
確認申請			→	
仮設店舗設置 (必要な場合)		仮設申請・確認申請	→	
整備・改修工事			発注準備	工事
開業準備				→
リニューアルオープン				→
協議会・部会	道の駅の整備検討			
	本エリアの取り組み内容等の検討			
運営企画組織				エリア全体の運営・企画



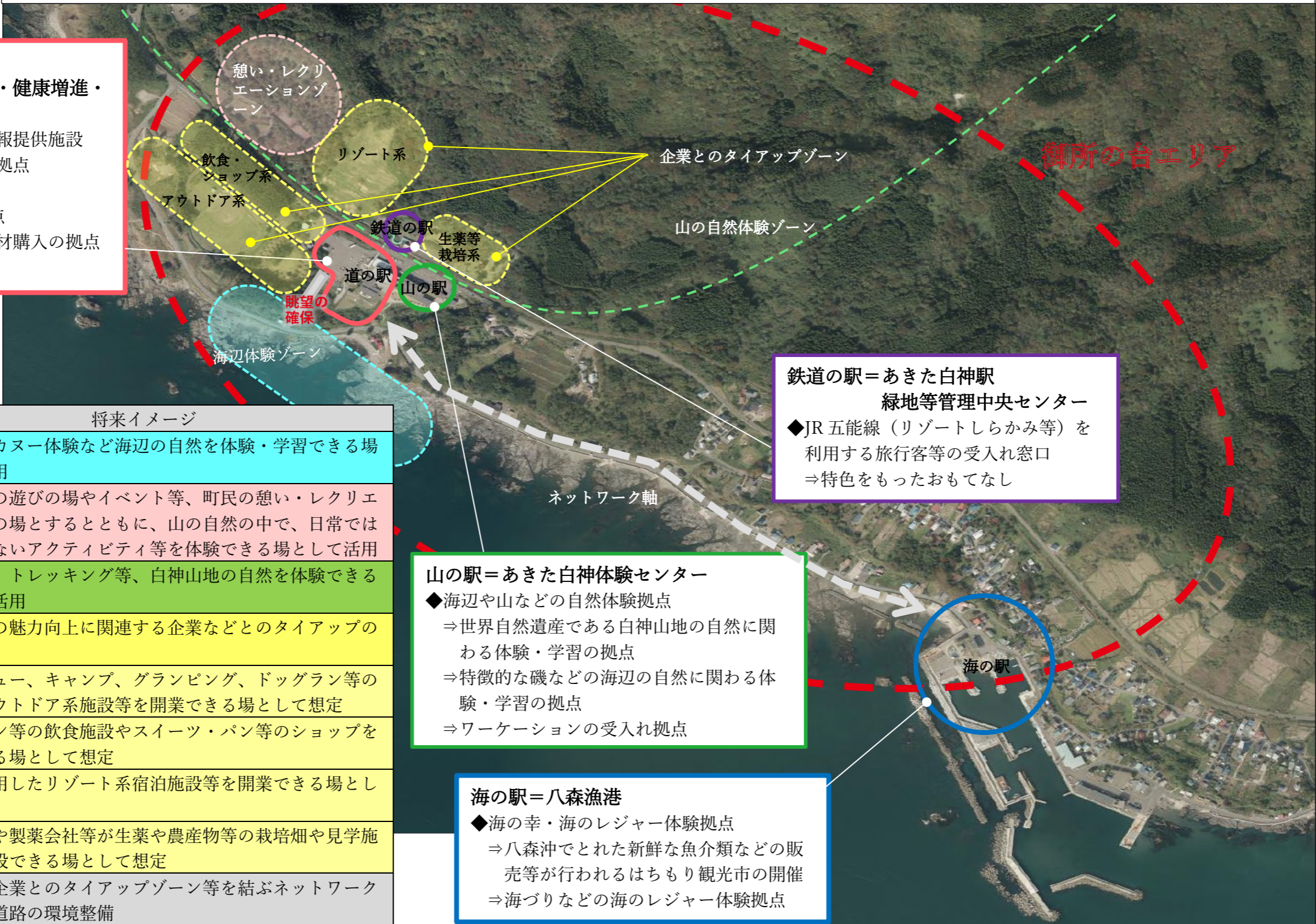
御所の台エリア将来像 道の駅・山の駅・鉄道の駅・海の駅が交差する「交流ターミナル八峰」

～白神山地の豊かな恵みを活かした交流ターミナルの創出～

道の駅=ハタハタ館
 ◆道の駅機能をもった宿泊・健康増進・特産品等販売拠点
 ⇒ドライバー等の休憩・情報提供施設
 ⇒温泉を活かした健康増進拠点
 ⇒旅行客等の宿泊拠点
 ⇒特産品等の販売・PR 拠点
 ⇒キャンプ場等利用者の食材購入の拠点
 ⇒地産地消の拠点

□各ゾーンの将来イメージ

ゾーン	将来イメージ
海辺体験ゾーン	・磯遊び、カヌー体験など海辺の自然を体験・学習できる場として活用
憩い・レクリエーションゾーン	・子ども達の遊びの場やイベント等、町民の憩い・レクリエーションの場とするとともに、山の自然の中で、日常では体験できないアクティビティ等を体験できる場として活用
山の自然体験ゾーン	・植物観察、トレッキング等、白神山地の自然を体験できる場として活用
企業とのタイアップゾーン	・本エリアの魅力向上に関連する企業などとのタイアップの場を創出
アウトドア系	・バーベキュー、キャンプ、グランピング、ドッグラン等の多様なアウトドア系施設等を開業できる場として想定
飲食・ショップ系	・レストラン等の飲食施設やスイーツ・パン等のショップを出店できる場として想定
リゾート系	・斜面を活用したリゾート系宿泊施設等を開業できる場として想定
生薬等栽培系	・地元農家や製薬会社等が生薬や農産物等の栽培畑や見学施設等を開設できる場として想定
ネットワーク軸	・道の駅や企業とのタイアップゾーン等を結ぶネットワーク軸として道路の環境整備



鉄道の駅=あきた白神駅
 緑地等管理中央センター
 ◆JR 五能線 (リゾートしらかみ等) を利用する旅行客等の受入れ窓口
 ⇒特色をもったおもてなし

山の駅=あきた白神体験センター
 ◆海辺や山などの自然体験拠点
 ⇒世界自然遺産である白神山地の自然に関わる体験・学習の拠点
 ⇒特徴的な磯などの海辺の自然に関わる体験・学習の拠点
 ⇒ワーケーションの受入れ拠点

海の駅=八森漁港
 ◆海の幸・海のレジャー体験拠点
 ⇒八森沖でとれた新鮮な魚介類などの販売等が行われるはちもり観光市の開催
 ⇒海づりなどの海のレジャー体験拠点

整備イメージ図

